

韓統連大阪通信紙

自主

チャジュ

361号

2021年3月号

자주

発行 在日韓国民主統一連合  
(韓統連) 大阪本部

〒544-0034

大阪市生野区桃谷3-13-6

TEL06-6711-6377 FAX06-6711-6378

毎月1日発行 購読料 年間3000円

郵便振替 00940-7-314392

民族時報社 大阪支社

## 韓米合同軍事演習を中止して、南北・朝米対話を再開させよう！

文在寅大統領は、1月18日の新年記者会見で「バイデン政府出帆で朝米対話、南北対話を新しく開始できる転機が作られたと考える。その場合、その対話はトランプ政府で成し遂げた成果を継承して発展させることだ」としながら、「シンガポール共同声明から再び始めてこそ」と強調した。残念ながら記者会見では板門店宣言には触れられていないが、南北関係の改善も板門店宣言から再び始めなければならないだろう。

続いて2月4日、バイデン大統領は就任後初めて文在寅大統領と電話会談を行い、朝鮮半島の非核化に向け緊密に協力していくことで一致した。文大統領はバイデン大統領に「朝鮮半島の非核化と恒久的な平和定着を進展させるため、韓米両国が共に努力しよう」と呼び掛け、バイデン大統領は朝鮮半島問題の解決における主要当事国である韓国の努力を評価し「韓国と同じ立場が重要であり、韓国と共通の目標に向けて緊密に協力していく」と述べた。

「朝鮮(朝鮮人民民主主義共和国)の非核化」ではなく「朝鮮半島の非核化」と表現されたのは、板門店宣言とシンガポール共同声明の精神に基づいたものとして評価できるし、バイデン大統領が韓国の立場を重視することを表明したことも評価できる。

まさにこのような局面で、今、文在寅大統領に求められるのは、バイデン大統領と直接協議して韓米合同軍事演習を中止することだ。

金正恩委員長は、1月に開催された朝鮮労働党第8回大会で「今後も強対強、善対善で米国を相手にする」とし、新たな朝米関係をつくる鍵は米国が朝鮮に対する敵視政策を撤回することにあると表明した。一方、韓国に対しては「北南(南北)合意を履行するため動いた分だけ、相手にすべき」と言及し、韓米合同軍事演習の中止などを条件に掲げ、韓国側の態度次第では近いうちに3年前のように平和と繁栄の新しい出発点に戻ることもできるとした。

韓米合同軍事演習の中止決定こそ、米国政府の対朝鮮敵視政策の転換のシグナルであり、韓国政府の南北合意履行の意思表示となり、朝米対話と南北対話再開の契機となるだろう。

それとは逆に韓米合同軍事演習が強行されれば、

北側の対抗措置を招来し、朝鮮半島における軍事緊張が高まり、南北関係と朝米関係は再び膠着局面に陥ってしまうだろう。

規模や期間を縮小して実施、コンピューターシミュレーションによる指揮所訓練、あくまでも防御目的の訓練などの情報が流布されているが、韓米合同軍事演習の目的は、ピョンヤン占領と北側指導部の除去にあり、危険千万な戦争演習に他ならない。

今、必要なのは同族を攻撃するための戦争演習ではなく、コロナ19を克服して南北関係を改善して、南北協力で経済危機を突破して南と北が共同繁栄して統一へ向かっていくことだ。

3月に予定された韓米合同軍事演習は、今後の南北・朝米関係の分岐点になるだろう。(金五)



▲韓米合同軍事演習の中止を求める韓国民衆

# 日本軍「慰安婦」被害者らの訴えに関するソウル中央地裁の判決について

李 鐵(イ・チョル)

今年1月8日、韓国の元慰安婦の女性12人が「精神的な苦痛を受けた」として日本政府に損害賠償を求めている裁判で、ソウル中央地裁は、原告1人当たり日本円にして約950万円の支払いを命じ、裁判費用も被告(日本政府)の負担とする原告全面勝訴の判決を言い渡しました。

しかし、原告の一人である李玉善(イ・カツン)さんは勝訴の知らせに接した直後「うれしくない」と語り、さらに「まともに解決されたものは何もない。日本は謝罪しなければならない。お金ではない」と述べ、続けて8年前に訴訟を起こし、その

間に7名の原告が亡くなっており、先に逝った同じ被害者を代弁して「私と同じ思いだろう。皆今も悔しい思いだろう」と語りました。

判決直後、日本軍性奴隷制問題解決のための正義記憶連帯被害者の支援団体など7団体は、判決を「記念碑的な判決を宣告した。今回の判決は大韓民国の

憲法秩序に符合するだけでなく、国際人権法の人権尊重原則に立って確認した先駆的な判決である。これにより国内の裁判所はもちろん、世界各国の裁判所が模範とできる人権保護の新たな地平を開いた。被害者らの切迫した訴えに誠心誠意耳を傾け“人権の最後の砦”として責務を尽くした大韓民国裁判所の判決を心から歓迎する」声明を発表しました。大韓弁護士協会も同様の声明を発表しています。

これに対して加藤官房長官は記者会見で判決を「受け入れず、韓国に是正要求」と語りました。日本側の主な反論は①主権免除の原則に反する国際法違反。②「慰安婦」問題を含め1965年の請求権・経済協力協定で可決済み。③2015年12月の日韓外相会談で「完全かつ最終的に解決」し、韓国政府も認めている。④判決は国際法、日韓合意に反するもので極めて遺憾。⑤韓国に対し国家として是正のための適切な措置を講ずることを求めると極めて厳しい態度を示しています。



▲日本政府の公式謝罪、法的賠償を求める女性たち

今回の判決で、①に関しては本件は日本帝国による計画的、組織的な広範囲に及ぶ反人道的犯罪で国際慣行規範に違反しており(河野談話参照)、「主権免除」は適用されない。②請求権協定は植民地支配に対する賠償交渉ではなく、日韓双方の財産権に関する解決のためのものであり「慰安婦」問題は含まれていない。③被害者の同意がなかったため被害者らの請求権は消滅していない。④主権の制約が伴う国際条約には国会の同意(批准)が必要であり、憲法に合致しない。⑤日韓合意は被害者らが韓国政府に委託した状態で行われ

たものではない。原告(被害者)の請求権が「不可逆的に解決」と断定できない。

日本の裁判所に提訴された「慰安婦」関連訴訟は10件で、いずれも最終的に敗訴しています。①アジア太平洋戦争韓国人犠牲者補償請求訴訟(1991年12月6日、東京地裁)②釜山

「従軍慰安婦」・女子勤労挺身隊公式謝罪等請求訴訟(1992年12月25日、山口地裁下関支部)③フィリピン「従軍慰安婦」国家補償請求訴訟(1993年4月20日、18名、同年9月20日、28名、東京地裁)④在日韓国人元「従軍慰安婦」謝罪・補償請求訴訟(1993年4月5日、東京地裁)⑤オランダ人元捕虜・民間抑留者損害賠償請求事件(1994年1月25日)などであり、文字通り今回の裁判は被害者らの最後の訴えの場でした。

国家権力による深刻な人権侵害に関して、被害者らはいつでも、どこの裁判所でも裁判を受ける権利があるとの判断は、国の壁を越えて、市民が国家を相手に裁判を起こすことができる画期的な判決であり、アジアで最初の判決です。30年におよぶ「慰安婦」被害者らの訴えが作り出した人類の普遍的財産です。日韓の葛藤を乗り越え、すべての人が法の下で平等であり得る「正義」がなされたものであり、日韓の市民の協力が作り出したものです。



## 闇は光に勝てない。韓国サンケン労組解雇撤回-会社再開闘争に支援を！

### 韓国サンケン労組を支援する大阪市民の会代表 浜本満夫

昨年10月中旬、埼玉の友人より「大阪での運動を手伝ってくれないか」との一報がありました。聞くと「日本のサンケン電気(本社:埼玉)は、7月に赤字を理由に突然一方的に韓国の100%子会社である韓国サンケン電気の解散を決定、ホームページに発表した。2021年1月20日に偽装解散—全員解雇を強行しそうなので、サンケン電気大阪支社への抗議申し入れ、アピール行動を11月中旬にやってくれ」とのことで、仲間5~6人に呼びかけ「韓国サンケン労組を支援する大阪市民の会」を作り、昨年11月3日に闘いを始めました。



▲サンケン電気大阪支社前での抗議行動

当日は、日韓関係の諸個人も多く参加してもらい20余名でした。それから12月に2回、1月、2月と抗議行動を展開してきましたが、サンケン電気取締役会は組合と一度も交渉に応じることなく1月20日、多くの日韓労働者、民衆の反対の声を押し切り、80年代に多発した組合潰しのための会社偽装解散—全員解雇を行いました。

全国金属労働組合慶南支部韓国サンケン支会は、2016年に生産部が廃止され、生産職が全員解雇されて以降、1年に及ぶ地域、そして日本遠征闘争を繰り広げ原職復帰を勝ち取りました。

会社側は生産財の稼働に必要な各種措置を実施すると約束し、組合は3年間の賃上げの凍結や工場移転といった諸問題について合意しました。しかし、サンケン電気は労使合意を完全に反故、無視し、ろくな機械設備ひとつ設置せず、生産すればするほど損失を生むような発注量しか割り当てず、計画的、意図的に赤字を作り出してきました。またサンケン電気は韓国サンケンに発注する代わりに、秘密裡に同じ製品の生産を韓国内で外注して韓国サンケンの名を使って欧州に輸出していま

した。

1996年に組合が韓国労組から民主労総へと転換したことを契機に、組合つぶしを執拗に繰り返し、今回も本社の和田社長が韓国サンケン社長との話において、4年前の闘いを非難し「組合があのような闘いをやらなければ(つまり、おとなしく解雇されていれば)会社を解散しないで済んだのだ」と言いました。さらに職場では常識では考えられない処遇と人権侵害、嫌がらせ行為を行いました。



▲韓国サンケン会社前で

#### 会社清算撤回を求め断髪を行う組合員

この会社解散、組合つぶしはコロナ禍の中、韓国サンケン労組が4年前のような日本遠征闘争ができないことを利用し、サンケン電気側はこの状況が2年間続くと判断して決行したのです。このことは労使協議で会社側が明確に述べています。韓国サンケンでは会社清算手続きを一刻も早く進めようと、昨年8月に賃金の60ヶ月分という破格の早期割増退職金(慰労金)を提示しましたが、「慰労金なんかいらぬ。職場に戻り労働者として働く」と組合員は誰一人受け取りませんでした。

昨年7月、サンケン労組16名は会社前で座り込みテントを設営して闘いを開始しました。しかし1月28日、韓国サンケンは組合テント及び組合事務所の撤去を内容証明で送りつけ、水・電気・ガスまでも止めたのです。解雇撤回、会社再開の声は今や韓国内、国会、自治体はもとより、日本の全国営業所闘争の拡大と、また外務省に於いても大きな問題に発展しつつあります。怒りも新たに日韓民衆の熱い連帯で闘い抜きます。

## 3・11東日本大震災から10年

### 仙台在住 申孝信(シン・ヒヨシ)

今年で2011年3月11日のあの日から10年を迎えます。「もう10年か、まだ10年なのか」という思いが私の頭の中で交差しています。

10年を経た被災各地の復興状況に関しては、政府・県が計画した復興計画は、ほぼ計画通りの進捗状況のようです。それらの事業とは海岸に沿って高さ10mの長大な防潮堤を造り、その山側に新しい住宅地を造成したり、また産業道路と防潮堤を兼ねた道路を造ったりと各地での違いはあるものの、復興事業は10年の年月を経て「ほぼ完成した」と言われるようになってきています。

しかし、なぜか素直に喜べないのです、もともと被災地のほとんどは、以前から住民の高齢化と人口減少が進みつつある地域でした。災害住宅が整備されても「何か大事なものが解決されていない。何かが置き忘れられてる」という違和感が、まとわりついていました。私は「それは一体なんなのだ？」とずっと考えてきましたが、やがてその正体に気がつきました。政府や県の進めてきた復興事業は、役人とゼネコンによる「机上の設計図」によるもので、そこに住んでいる住民の姿が見えていない、見ていない

のではないかとということです。例えば、浜に住んでいた漁師は防潮堤建設に異議を言えず、海を見る事ができないような生活になってしまいました。先祖伝来の土地に住むことを許されず、新しい居住地と仕事を求めて去って行かざるを得ない家族も珍しいことではありませんでした。政府・県の復興事業には、そこで生活してきた自分たちの家族の歴史や営みを思い遣る心、想像する思考が欠けているのではないかとということです。さらに「震災復興」を売りにした東京オリンピックの開催利権に利用されてしまったという思いが、多くの被災地住民の心の中に深く刻まれているのです。

東京オリンピック招致決定当時の総理大臣だった安倍晋三は「福島原発の事故は完全にコントロールされている」云々と断言しましたが、それが全くの虚言であることは明らかなことです。福島

原発事故現場では、毎日増え続けているトリチウム汚染水の処理に頭を悩ませ、1・2号機内の使用済み燃料棒の取り出しと、その後の安全な保管・管理についても、原子炉建屋内の高レベル放射能のために、いつになったら使用済み燃料体を取り出せるかわからない状態です。

今、福島では除染作業の打ち切りが始まり、除染作業に従事していた大勢の作業員が失業に見舞われ始めています。皮肉にもその作業員の多くが原発事故で住む家と仕事を失くした福島県民でもあるのです。

2月13日に宮城・福島地方で発生した震度6強の地震の際は、福島第1原発敷地内に設置されていた地震計が整備不良で機能していなかったという、笑うに笑えない失態が明らかになりましたし、女川原発のある女川町では震度4と発表されたものの、町民の体感では「とてもそんな震度ではなかった」と言われ、町民の中では「何か意図的なものを感じる」とささやかれています。福島原発事故は今なお深刻な状態に変わりはないのです。「巨大地震と津波は必ずやってくる」ということを決して忘れてはなりません。

最後に震災直後に韓統連大阪本部の皆さんをはじめ多くの方々から励ましの言葉を頂きました。茫然自失状態だった私がどれだけ励まされたことか、今も思い返すと涙がこぼれてくるほどです。あらためて感謝の挨拶を送ります。

昨年3月、支援で通っている女川町に「しあわせの黄色いポスト」を設置しました。計画から設置まで3年の日時を要しましたが、多くの皆さんの協力を得て復興モニュメントの一つとして設置することができました。女川町のJR女川駅はローカル線石巻線の終着駅でもあり、始発駅でもあります。その駅の目の前にある復興商店街・シーパルピアのレンガ道の東端に、黄色いポストはあります。近くに來られた折は、ぜひ立ち寄って絵はがき一枚でも投函して頂けたらと思います。



▲女川町にある  
しあわせの黄色いポスト



## 【コラム】 「最善の解決策」を選択する勇気を

### ●「よりましな選択」はない

想像してみました。もし2012年の大統領選挙で文在寅が当選していたら…。

韓国内の保守メディアは文政権に対して猛攻撃をかけ、連日非難を続けたでしょう。そして、そのような報道が日本にもそのまま流れにされたでしょう。そのような言論に影響された国民は、文政権に失望し、いずれにしても朴槿恵が2017年の大統領選挙で勝利していたでしょう。

そうすれば今回のコロナで、韓国では想像できないくらい多くの命が犠牲になったでしょう。それは今のヨーロッパを見れば明らかです。

2017年、フランスの大統領選挙で極右のルペンを阻止するためにフランス国民はマクロンを選択しました。果たして、その選択は正しかったのでしょうか。

「よりましな選択」が本当に最悪の事態を防ぐ役割を果たしたといえるのでしょうか。答えは明らかです。

今回のコロナでマクロンという選択が誤っていたことが

はっきりしました。マクロンとはすなわち、グローバル資本主義の最大の擁護者に過ぎなかったからです。本当は極右よりはマクロンではなく、本質的な解決を目指すべきだったのです。

私たちには「よりましな選択」というものは存在しません。選択を誤ることは命を失うことにつながります。今、私たちに必要なのは、すべてを解決する選択でなければ拒否する勇気です。問題を先送りし、思考停止するのをやめて、本当に大切なことは何かに向き合うのです。

### ●真実に向き合うということの意味

世界の中で唯一、コロナの制圧に成功しつつある韓国。一度もロックダウンや非常事態宣言を発令することなく、積極的に疫学的調査をし、集団感染が発生するたびに、それを行政と国民の協力で抑えてきました。今年末には集団免疫が可能となるだけのワクチンも十分確保しています。

一方の日本はどうでしょうか。GOTOだの、経済が大事だのと言って結局患者の発生を増やし、

増えたら緊急事態宣言を出して感染者を減らすことにあたふたする。

飲食店の午後8時までの時短営業は、1日6万円の補償を出すことで飲食業界の不満の声を封じこめる。すべては資本主義の根本、永遠の先送りです。

今まさに危機が到来しているにもかかわらず、根本的な解決策は何ひとつ呈示されていないのです。

### ●「問題の先送り」がもたらす本当の悲劇

現在の危機だけを避けようとして行動することは結局、大きな悲劇に直面することにつながります。セウォル号という悲劇を国民全員が目撃した韓国では、もうそんなごまかしは通じません。国民の目の前で304人が無残に命を失っていくのを見たのです。ごまかし、先送りがどのような悲劇を生むのかを全身の痛みを感じながら生きてきた韓国人には、小手先の解決策など存在しません。

私たちにとって次善の選択肢というものはないのです。あるのは、最善の究極的な解決策だけです。

私たちにとって、ただひとつの、正しい解決法とは何か。それは統一です。それまでの過渡的な方法とか、一時しのぎとか、そんなものは要りません。

血を流しながら、本当の問題に向き合う時が来たのです。本当の問題の解決につながらない選択は断固として拒否すべきです。

現在進行中の人類の最大の危機すら先送りにして、私たちにどんな未来があるのでしょうか。こんなにも多くの人々が血を流し、苦しんでいるのに、株が上がったと喜んでいる人間たちとは何なのか。痛み鈍感なのは罪です。今こそ勇気をもって、本当の解決に向かって歩き出しましょう。

一繰り延べされた死は生ではない。際限なく先に延ばされた生は、死そのものである

(キム・ヘス)



▲2016年朴槿恵を退陣に追い込んだ  
キャンドル革命

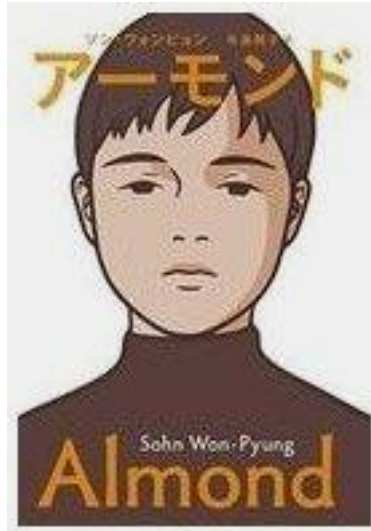
## 【書籍紹介】

## アーモンド

著者:ソン・ウォンピョン  
祥伝社・1600円

「アーモンド」は、韓国の作家ソン・ウォンピョンの文壇デビュー作であり、現在まで発行部数は40万部を突破しています(一般的に小説は10万部以上でベストセラーと言われます)。日本でも2020年の「本屋大賞」1位に輝くなど、世界中で多くの人々に愛されている作品です。ちなみに本屋大賞とは、書店の店員さんが良いと思った本を投票する賞のことで、スポンサーなどに付度することのない賞として世間の信用を得ています。アジア出身の作家が1位を獲得するのは本書が初めてらしく、かくいう私も本書に掲げられていた「本屋大賞1位」のポップにつられて購入しました。

タイトルの「アーモンド」とは、人間の脳の中のアーモンドのような形をした「扁桃腺」という器官を指しており、「感情を司る器官」と言われています。主人公のユンジェは、この「アーモンド」が人より小さく、生まれつき喜怒哀楽を感じにくい少年です。美味しいものを食べても無反応で、人からバカにされてもなにも感じず、大切な人を失っても涙一つ流さない。およそ「人間らしさ」を感じられないユンジェの行動に、周囲の人々は翻弄されます。この本は、そん



なユンジェが「人間とはなにか」ということを問い続け、成長していく物語です。

読み始めた段階では、ユンジェの欠落した部分だけが目に付き、終始ハラハラした気持ちになります。しかし、物語が進むうちに彼の成長と変化が少しずつ現れてきます。特に彼の前に突然現れた「ゴニ」という少年に出会ってからの変化はめざましく、自分に躊躇なくぶつかってくる「ゴニ」に対してユンジェは興味・関心以上の気持ちを抱くようになり、いつしかそれは友情→愛へと昇華していくのです。終盤、友を救うために自らの身を投げ出すユンジェの姿には、驚きと感動を禁じえません。

作者はこの作品を出産直後に執筆したそうで、子どもに対する「愛」がテーマになっています。あとがきの中で作者は「私は、人間を人間にするのも愛だと思ようになった」と述べています。ユンジェは周りの人々の愛に支えられ、一步一步、人間らしさを獲得していきました。社会による分断が深刻化し、特にコロナ禍による孤立が人々を苦しめている今だからこそ、共感・愛の大切さを訴えるこの本が、たくさんの人に支持されているのではないのでしょうか。(俊)

## ◆◆行事案内◆◆

韓統連セミナー2021 シリーズ「統一のための練習問題」その3(最終回)

## 統一における南の役割,私たちの役割

日時: 3月14日(日) 午後1時30分 受付/午後2時 開会

場所: KCC会館 (地下鉄「今里駅」下車2番出口から徒歩7分)

報告: 金隆司(弘・1ソ) 韓統連大阪本部代表委員

参加費: 800円(青年・学生500円)

主催: 韓統連大阪本部/問合せ090-3822-5723(崔)

## 編集後記

緊急事態宣言が解除されました。日常生活及び活動がもとに戻りつつあります。まだまだ予断を許しませんが、3月14日の韓統連セミナーには、ぜひ参加してください。(ソン)